

アクティビティ「あなたならどうする？—子どもの権利を使ってみよう—」

■ アクティビティ概要

参加者はまず、子どもの権利を守ろうと行動する子どもたちのストーリーを読みます。ストーリーは、3種類から選ぶことができ、文章を読むもしくは動画を見る方法を選べます。

ストーリーでは、自分たちの考えとは異なる意見を持つ人が現れます。参加者は、他者の意見も大切にしながら、自分たちの権利を守る（ストーリーのゴールに向かう）ために自分たちならどうするか、グループワークを通して考えるとともに、子どもは権利の主体であり、子どもの権利を子どもが自ら行使できることを知ります。

■ このアクティビティのねらい

- ① すべての人に人権があり、すべての子どもに「子どもの権利」があることを知り、他者の権利や意見も大切にしながら、自分の権利を守ることを考え学びます。
- ② 子どもは権利の主体であり、子どもの権利を行使する（使う）ことができることを知ります。
- ③ 自分の意見を言うことや権利を守る行動を起こすことは勇気が要るものであり、否定や反対が怖くなるかもしれないが、私たちは異なる人間でありそれぞれ違う意見があって当たり前であることを確認します。

■ おすすめの授業科目：

<特別活動>

学習指導要領では特別活動の目標として、「集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができる資質・能力を育成することを目指す」としています。本アクティビティでも、この目標にも通じる「他者の異なる権利や意見も大切にしながら合意を図ること・どう行動するかをグループで話し合う」ことに取り組みます。

<道徳>

学習指導要領では特別の教科道徳（道徳科）の目標を、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。（ ）内は中学校。」としています。つまり、道徳的価値を自分自身との関わりの中で多面的・多角的に捉えていくことを目標としています。

このアクティビティでは主に「C-15 よりよい学校生活、集団生活の充実」の内容項目に焦点を当てています。学習指導要領解説では「自らの所属する集団の目的や意義を理解するとともに、個人の力を合わせチームとして取り組んでこそ達成できることなど、集団の在り方について多面的・多角的に考えられるようにすることが大切である」と述べられており、集団の中で自分の権利と他者の権利を大切にしながら進むべき方向を考える本アクティビティとの親和性は非常に高いと言えます。

■ 所要時間：約 45 分

⇒約 45 分間で実施できるアクティビティですが、もっとじっくり取り組んでみることもできます。

例えば下記のように 45 分×2 コマで実施し、グループワークや全体共有に時間をかけることも 1 つの方法です。

<1 時間目>【表紙・約束について】～【自分たちだったらどうするか考える】を行う

<2 時間目>【全体共有】～【解説】を行う

■ **事前課題：**あり、なし、どちらでも可

⇒所要時間 45 分内に、個人でストーリーを読む時間を 5 分間設けていますが、ストーリーを読むことを事前課題にすることでグループワーク時間を長くすることもできます。

■ **ストーリーの選び方：**

①誰がストーリーを選ぶか

先生が選んでも、生徒たちが選んで好きなストーリーに取り組んでもどちらでも大丈夫です。ただし、「ストーリーに似た状況の子どもがクラスにいて、特定のストーリーは取り上げたくない」といった場合は、先生が取り組むストーリーを選ぶのがよいでしょう。

②全員で同じストーリーに取り組むのか、グループごとに異なるストーリーに取り組むのか

「全員が同じストーリーに取り組む」「グループごとにちがうストーリーに取り組む」どちらの方法でも大丈夫です。

※ストーリーを読む時間は 5 分しかなく、1 つのストーリーしか読むことができません。グループごとに 3 種類の異なるストーリーに取り組む場合は、全体共有時に子どもたちが互いのストーリー内容がわかるように、事前にストーリーを読むことを課題にしておいたほうがよいでしょう。

③ストーリーの読み方

ストーリーは、「カードをめくるようにしてストーリーを読む」「動画を見る」という 2 つの方法で読むことができます。参加者にとって取り組みやすい方を選ぶことができます。グループ内で順番に音読をして読むのもよいでしょう。

■ **準備するもの：**

- 先生・ファシリテーターのタブレットやパソコンの画面をプロジェクターにつないでください。

生徒や参加者も、各自のタブレットやパソコンを手元に準備します。

- 開始前に、グループワークがしやすいよう、1 グループ 4・5 名のグループ分けや机の移動などを行ってください。

- ワークシート：タブレットやパソコン上で書き込むことができます。

紙で記入する場合は、人数分印刷し、配布してください。

- 子どもの権利条約 条文一覧：タブレットやパソコン上で見るすることができます。

紙で確認する場合は、人数分印刷し、配布してください。

- 授業やワークショップ後、参加者にアンケートを行う場合は、事後アンケートもご準備ください。

【概要】 (時間) スライド番号 学習活動	声掛けの例	形態	指導上の観点・留意点	評価基準
【表紙・約束について】 (2 分) スライド 1 ～ 2	●スライド 1 子どもの権利を守ろうと行動する子どもたちが主人公のストー	一斉	●このアクティビティでは、すべての人に人権があり、すべての子どもに「子どもの権利」があることを知り、他者の	

【概要】 （時間） スライド番号 学習活動	声掛けの例	形態	指導上の観点・留意点	評価基準
<p>タブレットやパソコンで全員がページにアクセスします。画面上の「アクティビティ」タブのスライドを使用し、アクティビティの概要・「今日の約束」・今日読むストーリーについて説明します。</p>	<p>リーを読んで、自分たちが主人公だったらどうするか考えてみるグループワークをしましょう。</p> <p>●スライド 2 アクティビティを始める前に、みなさん一人ひとりが安心して参加できるように、「今日この場での約束」を確認したいと思います。（スライドの内容を読む）</p> <p>●今日のアクティビティでは、「ワークシート」を使用します。ワークシートはグループで 1 枚使います。まずグループで 1 人書記を決めてください。その後書記さんは、画面を少しスクロールし、「ワークシート」をパソコンにダウンロードし、書き込めるよう準備してください。</p>		<p>権利や意見も大切にしながら、自分の権利を守ることを考え学びます。また、子どもは権利の主体であり、子どもの権利を行使する（使う）ことができることを知ります。</p> <p>●「今日の約束」は、セーブ・ザ・チルドレンからの提案です。学級で決めた話し合い活動に関する約束事があればそちらを応用することもできます。</p> <p>●「ワークシート」は、タブレットやパソコン上で書き込むことができます。紙で記入する場合は、人数分印刷し、配布してください。</p>	
<p>【はじめに・ストーリーを選ぶ】 （3分） スライド 3～4 本アクティビティの概要を説明し、読むストーリーを選びます。</p>	<p>●スライド 3 すべての子どもには、生まれた時から「子どもの権利」があります。子どもたちは、安心して毎日を生き、成長していけるように守られる存在です。それと同時に、「子どもの権利を守って！」と行動したり、声をあげたりすることもできます。これから読むストーリーでは、子どもたちが権利を守るために行動し、その中で意見や視点の違う人と</p>	一斉	<p>●アクティビティの概要を参加者と共有します。</p>	

【概要】 (時間) スライド番号 学習活動	声掛けの例	形態	指導上の観点・留意点	評価基準
	<p>出会います。その時自分たちならどうするか、子どもの権利を“道しるべ”に、考えてみましょう。</p> <p>●スライド4 まず、読むストーリーを選びます。(グループごとに/クラスで) どのストーリーを読みたいか決めましょう。(先生やファシリテーターが読むストーリーを決めている場合は、～～のストーリーを読みましよう、と伝えま す。)</p>		<p>●上部の「ストーリーの選び方」に記載のある通り、取り組むストーリーは、参加者が選んでも先生・ファシリテーターが選んでもどちらでも大丈夫です。</p>	
【ストーリーを読む】 (5分) スライド5	<p>●スライド5 画面を少しスクロールして下の方を見てください。ストーリーが載っています。選んだストーリーのボタンを押して、ストーリーを読みましよう。動画でも見ることができます。</p> <p>ストーリーを読み終わったら、画面をスクロールして上のスライドに戻ってきてください。</p>	個人	<p>●ストーリーは文章を読む、動画を見るという2つの方法で把握することができます。参加者が取り組みやすい方を選ぶ、もしくは先生・ファシリテーターが決めた方法でストーリーを読んでもらいます。</p>	ストーリーを1つ読むことができるか
【意見・権利の主張のちがいを整理する】 (8分) スライド6～9 ストーリーでは、どのような意見のちがいがあるか整理します。意見のちがいを全員で確認します。	<p>●スライド6 みなさんが読んだストーリーでは、どのような意見のちがいがありましたか？グループで考え、ワークシートの吹き出しのところに書いて整理してみましよう。</p> <p>主人公たちと違う意見の人の発言は赤く書かれていますね。</p>	グループ	<p>●「他者の意見も大切にしながら自分の権利を守るにはどうしたらいいか」を考える前ステップとして、どのような意見のちがいがあるかを整理します。</p> <p>●このステップは参加者に考え、ワークシートに書いてもらってもよいですし、教員やファシリテーターとの対話を</p>	ストーリーでは、どのような意見のちがいがあるか理解できているか

【概要】 (時間) スライド番号 学習活動	声掛けの例	形態	指導上の観点・留意点	評価基準
	<p>ストーリーを見返してみましょう。</p> <p>●スライド 7～9 全員で、意見のちがいを確認してみましょう。(参加者が取り組んでいるストーリーについてのスライドの内容のみ取り上げます。)</p>	一斉	<p>通して整理しても良いでしょう。例えば、「このストーリーには誰が出てきましたか?」「～～さんは何をしたいと思っていましたか?」「〇〇の人は～～さんとは違って、どんな意見でしたか?」などの問いかけに口頭で答えてもらい、板書等で整理することもできます</p> <p>●どのような意見のちがいがあるのか全員で確認してから次のステップに進みます。</p>	
<p>【自分たちだったらどうするか考える】 (10 分) スライド 10 他者の意見や権利も大切にしながら、自分たちの権利を守るためにどうしたらいいか考えます。</p>	<p>●スライド 10 今、ストーリーではどのような意見のちがいがあるか確認しましたね。それでは次に、ちがう意見や他の人の権利も大切にしながら、自分たちの権利を守り、ストーリーのゴールに向かうためにみなさんだったら、このあとどうしますか? グループで考えてワークシートに書いてみましょう。</p> <p>ゴールはストーリーのなかで黄色いマーカーが引かれています。ストーリーを見返しながら、考えてみましょう。</p>	グループ	<p>●違う意見があっても、自分の権利を守る行動を「あきらめる」のではなく、何ができるか考えることに参加者が取り組めるようサポートします。</p> <p>もし、「もうあきらめる」といった意見が参加者から出た場合には、「自分の意見ややってみようと思ったことに、他の人がちがう意見を言ってきたら、もういいやって思ったり、達成は難しいなって思ったりしてしまうこともあるよね。」などその意見にまずは寄り添いましょう。そのうえで、今回は違う意見や権利の主張があってもあきらめずにストーリーのゴールに向かうことを考えてみることを促します。</p>	他者の意見や権利も大切にしながら、自分たちの権利を守るために何ができるかについて考えることができていますか

【概要】 （時間） スライド番号 学習活動	声掛けの例	形態	指導上の観点・留意点	評価基準
	<p>●参加者の考えを促す声掛け ＜図書館のストーリーを例に＞ ①役割取得（相手の立場に 立って物事を考える）を促す 問い 「Aさんはこう考えていたけど、 ～～の立場の人はどう考えて いるだろう？」</p> <p>②行為の結果を予測する問い 「もしみんなが、家に居場所 がなくて、図書館が安心できる 場所だったら閉館してしまうこと についてどう思う？」</p>		<p>●左記の声掛け例は、荒木寿友 著：『いちばんわかりやすい道徳の授 業づくり』明治図書、2021年、122 ～125頁を参考にしています。</p>	
<p>【全体共有】 （12分） スライド 11 グループワークで話し合 ったことを全体で共有し ます。</p>	<p>●スライド 11 グループで話し合った、「自分 たちが主人公だったらこの後どう するか」を全体に共有しましょ う。また、なぜそのように考えた のか理由も教えてください。</p> <p>ストーリーを読んで感じたこと や、「自分だったらこうする」とい う考えは人それぞれです。 これが正解、というものはありま せん。自由に意見を出し合って みましょう。</p>	一斉	<p>●全体共有を通して、他者の意見 や権利を大切にしながら自分の権利 を守ろうとすることに、様々なやり方 があることを確認します。先生・ファシリ テーターは、1つひとつのグループワー クの意見を否定せず受け止めましょ う。時間が限られている場合は、すべ てではなく、いくつかのグループに代表 して発表してもらいましょう。</p>	「自分だったらど うするか」、なぜ そう考えたのかに ついて様々な意 見が共有されて いるか
<p>【ストーリーの続きを読 んでみよう】 スライド 12～15 3つのストーリーの主人 公たちが、その後どうした のか「続き」を読みます。</p>	<p>●※このステップは、時間があ る場合には一斉に取り組みま す。もし時間がない場合には 「ストーリーの続きはアクティビ ティが終わった後に確認してみよ う」と話します。</p>	一斉 または個 人	<p>●このステップは、教材制作時に子ど もたちから「あのストーリーはその後どう なったのか」「セーブ・ザ・チルドレンな らどう考えるのか」という声が寄せられ たことから設けています。</p>	ストーリーの続き を、「これも一つ の例」として読む ことができている か

【概要】 (時間) スライド番号 学習活動	声掛けの例	形態	指導上の観点・留意点	評価基準
	<p>●スライド 12 ストーリーの主人公たちは、あの後どうしたのでしょうか？ 続きを一緒に見てみましょう。 ただ、この「続き」が正解というわけではありません。1つの例として見てみましょう。</p> <p>●スライド 13～15（各ストーリーの続きのスライドを読む）</p>		<p>●スライド 13～15 に示されているストーリーの続きは、決して正解ではなく、考え方の一例です。 ストーリーの続きを参加者に提示すると、どうしても「正解」という印象が強くなってしまふことも考えられます。クラスの雰囲気やアクティビティの流れなどを考慮して、提示しない方がよいと思われる場合はこちらのスライドを飛ばしても問題ありません。</p>	
<p>【子どもの権利の解説】 (4分) スライド 16～20 画面上部の「まとめ」の内容をもとに、子どもの権利について解説を行います。</p>	<p>●スライド 16 みなさん、グループワークと発表をお疲れさまでした。ここで、子どもの権利を行使する、つまり子どもの権利を使うことや、権利が守られるように行動するときに大切なことについて少しお話をします。</p>	一斉	<p>●「権利を行使する」という表現は、参加者の年齢によっては難しいかもしれません。「権利を行使する、というのはみなさんが持っている子どもの権利を使うということです。例えば、教育を受ける権利が子どもたちにはあるのに受けられていない時に、教育を受けたい！と求めたとします。これが、権利を使うということです。今日読んだストーリーの子どもたちも、自分や他の子どもたちの権利を守ろうと、様々なかたちで権利を行使していましたね。」などのように、「行使する」という言葉を少ししみ砕き、例を示すこともできます。</p>	<p>子どもの権利を行使する、権利が守られるように行動する時に大切なことを理解できているか</p>

【概要】 (時間) スライド番号 学習活動	声掛けの例	形態	指導上の観点・留意点	評価基準
	<p>●スライド 17 ストーリーでは、子どもたちが自分の考えを大人やクラスメイトに話したり、権利を守ろうと行動したりしていましたが、これはとても勇気がいることですよね。「否定されるのではないか」「誰かを傷つけてしまうんじゃないか」と怖くなったり、行動をあきらめたりしたくなるかもしれません。でも、意見はちがって当たり前です。1 人ひとりが自分なりの考えや大切なものを持っています。そして、それぞれが 1 人の人間として尊重される存在です。</p> <p>●スライド 18 ストーリーの子どもたちのように子どもの権利を守るための行動をするとき、大切にしてほしいことがあります。アクティビティの最初にもお話しましたが、人権は、どこでも・だれでも・いつでも、生まれながらにあります。「すべての人」に人権があり、「すべての子ども」に子どもの権利があります。だから、自分の権利を守って！と行動するときには、他の子どもたちや大人たちの権利も大切にしなければなりません。また、権利を守ってほしいと求める行動には、自分のためだけでなく、他の人の</p>		<p>● 権利教材を作成する過程の子どもたちのヒアリングでは、子どもの権利を学ぶ以前に「自分の意見を言うことに不安がある」「否定されるのが怖い」といった声が聞かれました。スライド 17 では、そのような子どもたちの不安に共感を示しつつ、それぞれが尊重されることの重要性について説明します。</p> <p>● 権利を行使しようとするとき、他の人の権利の主張と衝突するような出来事があるかもしれません。そのようなときに重要になる姿勢や、考え方についてスライド 18 で伝えます。</p>	

【概要】 (時間) スライド番号 学習活動	声掛けの例	形態	指導上の観点・留意点	評価基準
	<p>権利を守るための行動もあります。</p> <p>●スライド 19 また、ストーリーでは、主人公たちが権利を守るために自ら行動をおこしていましたが、いつも必ず「権利を守るために自ら行動しなければならない」ということではありません。例えば、子どもの権利条約の 34 条には性暴力から守られる権利がありますが、性的な暴力を受けている子どもたちが、権利を守ってと行動しないと守られないということではありません。権利が侵害された様々な状況で、子どもが自ら行動しないと権利が守られないということではないのです。</p> <p>権利が侵害されている時、みなさんの相談にのってくれる、助けてくれる相談先もあります。このウェブページの 1 番下に「<u>困ったときの相談窓口</u>」が載っているそうですので、見てみましょう。</p> <p>●スライド 20 子どもは、無条件に権利を守られる存在であると同時に、「権利の主体」です。これは、子どもの権利の大切なポイントです。権利の主体であるという</p>		<p>●ストーリーの主人公たちは、自分や周りの人々の権利を守るための行動をしています。このように行動することがどんな時でも必要であると理解されないよう、スライド 19 の内容は割愛せず、参加者に必ず伝えたいところです。</p> <p>●スライド 20 に、「権利の主体」という言葉があります。この「権利の主体」については、「こども大綱」でも言及されています。令和 5 年に閣議決定された「こども大綱」は、こども基本法に基づき、こども政策を総合的に推進</p>	

【概要】 (時間) スライド番号 学習活動	声掛けの例	形態	指導上の観点・留意点	評価基準
	のは、「権利が守られるよう求める・行動をすることができる」ということ、つまり、権利を使うことができるということです。みなさんもストーリーの子どもたちと同じように、子どもの権利を守るために声をあげることが出来ます。		<p>するための基本的な方針です。『こども・若者を権利の主体として認識し、その多様な人格・個性を尊重し、権利を保障し、こども・若者の今とこれからの最善の利益を図る』ことをこども施策の 6 本柱の 1 つにするとともに、『こども・若者は、(～略～) 自立した個人として自己を確立していく、意見表明・参画と自己選択・自己決定・自己実現の主体である。つまり、こども・若者は、心身の発達過程にあっても、乳幼児期から生まれながらに権利の主体である。』(第 2 こども施策に関する基本的な方針より) と示しています。</p> <p>また、第 3 こども施策に関する重要事項では、子どもたちに自らが権利の主体であることを伝えることや、こども・若者が権利の主体であることを社会全体で共有することに取り組むと示されています。</p> <p>さらに、人権教育・啓発に関する基本計画(第二次) 第 5 章では、権利の享有主体であることの認識を得ることのできる人権啓発が重要であるとされています。</p>	
【まとめ・おまけ】 (1分) スライド 21 アクティビティの学びのポイントを振り返るとともに、おまけのワークを紹介します。	●スライド 21 今日はみなさんストーリーを読み、自分たちならどうするか考えましたね。今後、みなさんが権利を守ってほしいと求める行動をするとき、意見のちがいや権利がぶつかりあって、なかなか	一斉	●最後にこのアクティビティで大切なポイントを振り返ります。 ●参加者が子どもの権利を守る行動をするために、誰に助けを借りたらいいのだろう? と思ったら、ウェブサイト「こどものケンリ」に掲載されている「 困	子どもの権利を守ろうと行動するとき、①自分や周りの人の意見や権利を大切にすること、②なかなかゴール

【概要】 (時間) スライド番号 学習活動	声掛けの例	形態	指導上の観点・留意点	評価基準
	<p>かゴールにたどりつけないこともあるかもしれません。自分や周りの人の意見や権利を大切にすることをぜひ覚えていてください。また、「権利を守って！」と主張しても様々な検討が必要で、すぐには実現しないことも多いかもしれません。しかし、あきらめずに周りの人の力も借りながらアクションをおこすことを考えてみましょう。</p> <p>●このアクティビティには、おまけがあります。(吹き出しのなかを読む) 答えを考えてみた人はぜひ先生に教えてください。</p>		<p>つたときの相談窓口」が参考になります。(スライド 19 でも紹介しています)</p> <p>また、相談窓口を探す練習をするアクティビティ「『頼りになりそう』を探してみよう」もあります。このアクティビティに関連する内容として、後に取り組むこともできます。</p> <p>●おまけワークの解答例はこの表の下に記載しています。このおまけは、例えば学校で本アクティビティを使った子どもの権利の授業が終わった後も、子どもの権利について考え、話す機会が生まれることを目指して設けています。</p>	<p>にたどり着けなくても諦めずに助けも借りながらアクションを起こすこと、が重要であることを理解しているか</p>

■スライド 21 「もっと学んでみたい人へ」 おまけのワーク について
ストーリーに関わりがありそうな子どもの権利条約の例はこちらです。

※こちらに書かれているのは、あくまで「例」です。

ここに挙げられている「例」以外にも 4 つの一般原則 (第 2 条：人種・性・国籍・障害などで差別されない権利、第 3 条：子どもにとって最も良いことを考えてもらう権利、第 6 条：生きる・育つ権利、第 12 条：意見を聴かれ、正当に重視される権利) をはじめとし、様々な子どもの権利条約条文とストーリーが関わっています。

1) 図書館

- 第 12 条「自分に関わるすべてのことについて意見を聴かれ、その意思を大切にされる権利があります。」

ストーリーでは子どもたちが図書館の職員に自分たちの意見を伝え、職員はその声を聴き尊重し行動していました。これは、第 12 条の「意見を聴かれ、正当に重視される権利」とつながります。

- **第 13 条「さまざまな方法で情報や考えを得て、自由に伝えたり表現したりする権利があります。」**

ストーリーの主人公たちは過ごしやすい図書館にしたいと求めています。子どもたちが過ごしやすい図書館を利用でき図書などの資料にアクセスできることは、第 13 条「様々な方法で情報や考えを得て、表現する権利」とつながりがあります。

- **第 15 条「市民として社会に参加するために、グループを作り、集まる権利があります。」**

ストーリーでは子どもたちが自分や地域の人々が過ごしやすい図書館にいくために、同じ意見を持つ友人たちとともに行動を起こしていました。これは、第 15 条「市民として社会に参加するために、グループを作り、集まる権利」とつながりがあります。

- **第 17 条「さまざまな情報にアクセスでき、有害な情報からは守られ、情報を有効に活用する権利があります。」**

ストーリーの主人公たちは過ごしやすい図書館にしたいと求めています。子どもたちが過ごしやすい図書館を利用でき図書などの資料にアクセスできることは、第 17 条「さまざまな情報にアクセスし情報を活用する権利」とつながりがあります。

2) 学校

- **第 12 条「自分に関わるすべてのことについて意見を聴かれ、その意思を大切にされる権利があります。」**

ストーリーの主人公たちは、「校則を見直すこと」について意見を表明し、その意思を大切に先生や生徒たちとともに活動に取り組んでいました。また生徒たちの意見がアンケートを通して聴かれ、その声が大切にされていました。これは、第 12 条の「意見を聴かれ、正當に重視される権利」とつながります。

- **第 15 条「市民として社会に参加するために、グループを作り、集まる権利があります。」**

ストーリーでは子どもたちが校則見直しに取り組むグループを作り活動をしていました。これは第 15 条「社会に参加するために、グループを作り、集まる権利」とつながりがあります。

- **第 28 条「すべての子どもは平等にかつ無償で教育にアクセスできる権利があります。学校の規律は子どもたちの尊厳が守られるものでなければなりません。」**

ストーリーでは子どもたちが学校の規律である校則の見直しに取り組んでいました。これは、第 28 条「平等に無償で教育にアクセスできる権利があり、学校の規律は尊厳が守られるものでなければならない。」につながります。

3) 避難所

- **第 12 条「自分に関わるすべてのことについて意見を聴かれ、その意思を大切にされる権利があります。」**

ストーリーで、主人公は「自分の学校が避難所となった時に、『子どもにやさしい空間』をつくってもらえないかな?」という意見を、様々な反応がクラスメイトからありながらも、学校の先生や生徒たちに受け止められ、何ができるのか一緒に考えていました。また、ストーリーの続きでは、地域の避難所運営委員会から「話を聞かせてください」と連絡があり、主人公たちの声を聴く場面へとつながる展開が示されています。これは、第 12 条の「意見を聴かれ、正當に重視される権利」とつながります。

- **第 31 条「子どもには、休む権利、自由な時間を持つ権利、遊ぶ権利があり、文化的・芸術的な活動に十分に参加する権利があります。」**

ストーリーでは子どもたちが、災害時であっても避難所で子どもたちが安心して過ごし、学んだり遊んだりできる場所「子どもにやさしい空間」をつくってほしいと求めています。これは、第 31 条「休む・遊ぶ権利」とつながります。

- **第 39 条「あらゆる暴力の犠牲・対象となった子どもは身体と心を回復させ、社会に復帰し、尊厳を取り戻すための支援を受ける権利があります」**

ストーリーで子どもたちが求めている「子どもにやさしい空間」は、子どもたちの日常を取り戻し、心理的回復のために重要な役割を果たします。第 39 条では子どもたちが、虐待や搾取、紛争などの災害にあった際に身体的・心理的回復の支援を受ける権利があるとされており、つながりがあります。